



～kimochi(気持ち)良しエピソード受賞 10 作品～

私には身体の不自由な娘がいます。主人の父、娘にとってのおじいちゃんがとっても、とっても優しいおじいちゃんでした。娘は生まれつき身体が弱く、寝たきりで年に何度も入院する子でした。別宅に住んでいましたが、子供の体調不良の時は直ぐに駆けつけて私が大変だろうからと病院もいつも一緒に行ってくれました。

入院時完全付添の時は毎日のように朝～夕方まで付添を代わってくれて私は仕事も続けることができました。保育園に手が掛かるからと断られると『俺が見てやるから大丈夫』とおじいちゃんが保育園代わりになってくれ、就学しても医療ケアが必要で学校も付添わないとならない時は『仕事があるんじゃ俺が学校一緒に行つてやる』と学校でも例がないおじいちゃんの保護者付添をしてくれました。

病院でも、学校でも有名になった事は言うまでもなく、とっても気持ちの良いおじいちゃんでした。凄く残念な事ですが、数年前急な病気で亡くなってしまいましたがいままで私達家族の自慢のおじいちゃんです。

子供の頃、敬老の日だからお爺ちゃん、お婆ちゃんにいつもありがとうと伝えなさいと両親に教わり毎年敬老の日になると思いだし伝えていました。中学生の頃にはお爺ちゃんは他界していたため、お小遣いでお婆ちゃんにハンカチをプレゼントしたら涙を流しながら喜んでくれました。

何年経ってもこのハンカチは捨てられないと言い大切に使ってくれていたのを思い出しました。何年間か色々なプレゼントしてきましたが数年後お婆ちゃんが他界しました。部屋を片していたら私があげたものが沢山残ってました。高価なものでもないのに大事につかってくれたんだと思います。

昔の人は物を大事に使うし、やたらと捨てたりしない、今の私はお爺ちゃん、お婆ちゃんの教えを守れてないのでこれをきにもう一度物の大切さを考え直します。

学校では学べないものを沢山教えてくれたお爺ちゃん、お婆ちゃんに感謝してます。

私のお姑さんは 10 人に聞いたら 15 人が「良い人」と答えるくらい周りに親切にしてあげるのが生きがいみたいな人です。

お姑さんは 70 歳を超えていますがとても若々しく身体を動かすのが大好きで趣味で畑をやっています。収穫した野菜は当然のように親戚や近所の人に配ります。あるときは、配りすぎて「気づいたら自分の家の分がなくなつてたわー」と豪快に笑ったりするような人です。嫁の私に対してもそうです。本当にビックリするくらい優しく、こんなに人のために動ける心を持った人がいることを、ほとんどの人は出会えず、知らずに一生を終えるんじゃないかなと思うほどです。そんな尊敬できるお姑さんに出会えて本当にお嫁にきて良かったです。

おばあちゃんは今も健在ですが、今は亡きおじいちゃんを紹介します。

子どもの頃、1年に1度の夏休みは1ヶ月近く田舎の靴屋を営む祖父母の家に遊びに行かせてもらっていました。私も従兄弟の父母もフルタイムで働いていたので、1ヶ月父母なしで子どもを任される祖父母。

朝ごはんを食べた後は必ず学習タイム！2階で勉強(しているふり)をしていると必ず勉強を見に来るおじいちゃん。2階に上がってくる階段の音が聞こえると必ず従兄弟と隠れるのが毎日そして毎年のルーティーン。

勉強しなさいだとか散歩に行こうとか少し話そう！と言って座らされ昔の話や石油、地形の話などを永遠としていたおじいちゃん。しつこいな〜ゲームがしたいな〜と思いつつ上の空で話を聞いていましたがいつでも愛情たっぷり毎年遊びに行くのが楽しみでした。

もうこの世にはいませんが「こんな所に隠れていたのか」と楽しそうに笑っている姿が今でも目に浮かびます。イラもせず 6人の孫を毎年のように気持ち良く面倒を見てくれた子煩悩なおじいちゃん！本当に感謝しています。

自分たちが交際している時から義母は、全てを受け入れてくれて、家族同然のように接してくれて、『まだ家族じゃないけど、悩んでること、考えてること、愚痴でも何でもイイから1人で抱えず話してね、家族だと言ったってお互いに話さなきゃ、お互いを理解することが出来ないんだから。家族も縁があって家族になって、縁で繋がってるからこそ、最終的には手を取り合って円(丸)で繋がるのが家族だと思うから〜。人数が増えれば繋がる手も増え、円も大きくなって、色々あった時に、その手が助けてくれるのよ。色々あってもイイじゃない、言い合いしたってイイじゃない、ケンカじゃなく、お互いを理解するための話し合いなんだから〜。』と言ってくれました。

そんな義母と家族になりたいくて結婚を決め数十年前に家族にしてもらいました。今、現在も、それは変わらず、義母とは嫁姑の地位で家族なんだけども、相談すれば、穏やかに的確なアドバイスをしてくれるので、義母のおかげで嫁姑の関係性というより、今では友達よりも下手したら旦那さんより何でも話せる同性の良き人生の先輩です。私も義母のような穏やかな気持ちを持ち、年齢を積み重ね方を出来たら〜と日々、見習っております。

私の祖母は99歳です。女手ひとつで6人の子供を育ててきた、私の1番尊敬している人です。とにかく強さの中にやさしさがある世界1の祖母です。私は県外に嫁いだのですが、その時から毎年秋になると、祖母から手編みの靴下が沢山届くようになりました。祖母の思いが詰まっっていて、本当に暖かくて、履いているだけで、身体も心もぽかぽかになります。一年かけてたくさん編んで、孫達に送っているのです。

いつも、靴下と一緒にひと言メッセージも添えられているのですが、笑顔を忘れずにとか、まわりの人に感謝など、不思議とその時に悩んでいる事の答えになる言葉ばかりです。年々、視力も手先も弱ってきて、編める枚数も減ってきていますが、今年も楽しみに待ってるよ。おばーちゃん。

私の亡きおじいちゃん、生前、私を可愛がってくれだいたい大好きなおじいちゃん。不思議なパワーがあって。身内からは仏のような人と言われているような優しい人。私の孫を見たく抱きたい。見たい。と昔から口癖のようにいってたおじいちゃん。

何年も子供を授かれず手術をし、不妊治療をスタートしたすぐ亡くなってしまい。会わせられず夢を叶えてあげられず。そんなおじいちゃんの棺にお手紙をいれ、ひ孫見せてあげられなくてごめんね。赤ちゃんできたら報告するね。と...そしてお葬式やらを終え家にきたくし、次病院いついこうかな。と、気がついたら生理予定日すぎ、まさかと思いい検査薬をすると、みたことなかった線が浮かび上がり、見事授かることができ、おじいちゃんと同じ男の子、そして、おじいちゃんの産まれた月と同じ誕生日で出産し、おじいちゃんのパワーだと、おじいちゃんの生まれ変わりじゃないかと喜び、そして49日が終わるまでかかさず夢に現れてくれたおじいちゃん。

49日を終わるとぱったり夢では会いにきてくれず不思議なパワーをもっていて、生前から天国いっても見守ってくれてるおじいちゃん、いつも見守ってくれてありがとう。昔から幸せを分けてくれるおじいちゃんでした。

看護師の私には今でも思いを馳せる患者さんがいます。末期癌で入退院を繰り返すそのおばあさんとは長い付き合いで、結婚式控えた私は試着したドレスの写真を見てもらっては近距離報告をしていました。

ある日「私のも…撮ってみたの」と50年前の自分の結婚式の写真を携帯で撮影して見せてくれました。2人でキャーキャー言いながら結婚について語り合い、それから数日後おばあさんは亡くなってしまいました。

同日、病室で荷物の整理をしていたご主人が突然大号泣しながらナースステーションにやってきました。「見てくれよ、あいつの携帯に、こんながあったんだ。こんな昔の…持ってくれたんだよお。そんなこと聞いた事もなかった。なあ、見てくれよ。」それは私に見せてくれた結婚式の写真。おじいさんは、奥さんがずっと携帯入れて持っていてくれたのだと思ったようです。嬉しい、嬉しいと泣いていたおじいさん。私は「素敵ですね。私にも嬉しそうに見せてくれましたよ。」とだけお声をかけました。

残されたおじいさん、あの写真を見た事で、今の人生が少しでも愛に満ちて、穏やかに幸せに過ごせているかな。

今でもふと思い出す素敵なおじいさんおばあさんの思い出です。

僕のお爺ちゃんお婆ちゃんは、とてもパワフルな人です。

自分の家だけでなく、兄弟や子供達の家や畑の草刈りも、嫌な顔をせずいつも汗びっしょりになってやってくれます。そして、最近では身内の草刈りだけではなく、小学校や中学校の校庭まで自ら志願して草刈りをしています。

そんなある日、「中学校のグラウンドが凄く綺麗になったんだよ～。いつも草だらけで野球をするときに邪魔だったんだけど、凄くいい感じ！」と友達が言っているのを聞きました。もちろん、友達は僕のお爺ちゃんお婆ちゃんが草刈りをしていたことは知りませんでした。僕はとても誇らしい気持ちになりました。自分の事だけでなく、**地域の事まで考えて行動**して、綺麗にしてくれているなんて、本当に凄い事だと思います。お爺ちゃんお婆ちゃんが草刈りしてくれた場所は綺麗になって、気持ちがいいだけでなく、そこを利用している人達皆が気持ち良くなれる。僕の心も凄く気持ちいいです。

私の母つまり子供からして祖母になる二人のエピソードです。

コロナ禍になる前、毎年お盆に実家に帰省していました。母は、常日頃から可愛いものが目につくと年金から購入し、帰省した子供に、まとめてプレゼントしてくれました。シャボン玉・折り紙・色鉛筆花火等々、けて高価なものではありませんが、その量は半端ではなく凄い量なのです。その他にも、小遣いをくれるなど、孫にはとても甘いおばあちゃんなのです。

4年前の帰省のときも、沢山のプレゼントを子供にくれました。そのお礼に子供と話、庭の草抜きをすることに決めました。母には内緒なので、母が起きる前に子供と起きて草抜きをする予定を立てました。早起きが苦手な子供が起きる心配でしたが、その日は直ぐに起きてくれました。家への出入りをすると母が起きてしまうため、あらかじめ軍手とゴミ袋と水筒を持ち庭に出ました。早朝からとても暑い日で、子供は汗を拭いながら草抜きを頑張りました。

草抜きを終え家に入ると、母がちょうど起きたところで、寝ているはずの孫が玄関から入ってきてとても驚いていました。子供が母に理由を告げて庭を見せようと同時に母に「ばーば、いつもありがとう。」と言うと、母は子供を抱きしめ泣いてしまいました。バーバが泣いている姿を見るのが初めての子供は、自分がバーバを泣かしてしまったと思い、困ってしまい泣いてしまいました。母が嬉し泣きであることを、子供の頭を撫でながら話すと子供は泣き止みましたが、**バーバと子供お互い優しさから出た涙**に、私も感極まって泣いてしまいました。草抜きをして汚れた手で涙を拭った子供と私の顔には、茶色に染まった涙が頬に放物線を描いてあり、それを見ながら今度は3人で大笑いです。今は、忘れられない素敵な思い出となっています。母は、今も可愛い物を見つける度に、少ない年金から買ってくれているそうです。